目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第４０号　2008年 9月　発行人：八幡和三郎　編集長：服部 尚彦　事務局長：吉田 博行

事務局：〒153-0053　目黒区五本木2-47-5　Tel 03-3713-2096

第９回　定時総会開催

（第三代八幡会長誕生）

2008年7月6日（日）こまば・エミナースに於いて64名の方々の出席のもと目黒稲門会第9回定時総会が開催された。

先ず司会者より、本日のご来賓として次の方々が紹介された。

杉本甲二　　早稲田大学理工センター長
広瀬　剛　　早稲田大学総長室渉外局課長
小太刀昌雄　稲門祭実行委員・荒川稲門会幹事長
佐藤裕彦　　稲門祭実行委員・大田稲門会幹事長
青木英二　　目黒区長（懇親会のみ）

次いで、加藤会長より開会の挨拶があったが、最後に2期4年の会長職を会員各位の協力を得て無事過ごすことが出来た。次期会長選任の経緯は後刻報告させて頂きたいとの発言があった。

続いて杉本理工センター長のご挨拶があり、125周年記念事業募金目標に対する目黒稲門会の100％を越す達成協力に対して謝意表明があった。また、東京女子医大と組んで医・工大学院を作る案件や、東大、京大、慶大、早大の4校で大学院を相互に出入り出来る協定を結ぶ話など幾つかの計画の紹介があった。

広瀬総長室渉外局課長より、記念事業募金の目標達成を表彰する「ゴールド・フラッグ」が加藤会長に手渡された。

定時総会に入り、横山副会長に議長を委嘱。下記の議案が順次付議され、何れも異議なく採決された。

(1)　平成19年度事業報告
(2)　第9期決算並びに監査報告
(3)　平成20年度事業計画
(4)　第10期予算計画
(5)　平成20年度役員52名就任の件

うち、新任役員2名　梶　恵作、田畑　繁

次に加藤会長より2期4年の会長任期を無事終えたことへの謝辞と次期会長を八幡和三郎副会長にお願いするに至った経緯の紹介があった。昨年の7月に会長推挙委員会を作り、本年5月7名の長老による委員会を開いた。加藤会長より、人格識見共に優れた八幡和三郎氏を推挙するが、只一健康面が気掛かりとして討議の結果、ご本人に来駕頂き、全員で説得、御願いをした。八幡氏より2～3の条件で会長就任の快諾を得た。

かくして八幡新会長人事は総会で満場一致採決をされ、拍手の中で新旧会長引継ぎの握手がなされた。

八幡新会長よりは、前二代の会長が築いた立派な品格のある目黒稲門会を踏襲発展させるべく努めたいとの所信表明があって総会を終了した。

続いて懇親会に入り、青木英二目黒区長にご挨拶を頂いた後、広瀬総長室課長より、125周年記念事業募金の結果報告があり、200億円の目標に対して203億円と目標を達成した。大学より全国の支部稲門会に目標額をお願いしたところ、目黒稲門会は78百万円に対し89百万円と達成し、ゴールド・フラッグに輝いた。他にゴールド・フラッグを手にしたのは東京の13、地方で17の稲門会であった。

また、母校では現在7割が50人以下の授業で小さな教室となっている。見に来てお孫さん達に新しい早稲田をPRして頂きたい。なお、最近渋谷―池袋間に新しい地下鉄が開通し、西早稲田駅が大久保キャンパス（理工学部）に直接つながった。これに伴い本部のある西早稲田キャンパスを「早稲田キャンパス」と改称した等々の話を頂いた。

次に、八幡新会長発声により乾杯を行い親睦の輪を広げた。今回はジャズバンドやショー物の催しは行わず、テーブルに着席して歓談する形とし、それぞれのテーブルには目黒稲門会の誇る美術・歴史鑑賞部会を始めとする9部会長が着席し、PRに努めた。この間、稲門祭記念品販売に駆けつけた小太刀・佐藤23区支部販売担当により、持参の記念品を完売する成果を挙げた。また、土川副幹事長による恒例の総会初参加者紹介は、梶　恵作氏一人であったが、壇上より挨拶を頂いた。懇談の盛り上がるなか終了時刻が迫り、これまた恒例の伏見会員のリードで肩を組み、「都の西北」を高唱した。市瀬副会長の中締めの挨拶と3・3・7拍子の手締めをもって閉会した。

（島田　記）

総会出席者名簿（敬称略）

出席者（敬称略）：（来賓）青木英二　目黒区長、杉本甲二　早稲田大学理工センター長、広瀬　剛　早稲田大学総長室渉外局課長、小太刀昌雄　稲門祭実行委員・荒川稲門会幹事長、佐藤裕彦　稲門祭実行委員・大田区稲門会幹事長

（会員）（五十音順）浅海敏之、芦澤哲男、阿部喜久雄、荒瀬修一郎、有山勇次郎、安藤嘉昭、石川智子、市瀬一江、市瀬達夫、伊藤　悠、井村正陽、岩佐好泰、海口昭治、梅沢良雄、大久保健治、大杉邦雄、大竹一子、大野利幸夫妻、小野　満、海沼美智子、梶　恵作、加藤栄護夫妻、紀本直幸、桑野祐光、小杉　哲、桜井輝隆、渋谷多喜男、島田久家、嶋田勝彦、外岡　明、田島順一郎、田畑　繁、千野逸平、土川俊雄、手塚仁雄、永田耕治、中西千可子、服部尚彦、林田雅敏夫妻、樋口定廣、樋口俊彦、藤岡長世、伏見和則、堀井良造、牧野武夫、松尾洋一、松田哲也、宮本良平、村上　満、保井　正、八幡和三郎、横山　大、吉田博行、渡辺明久、渡邉三郎

目黒稲門会　第7期　決算報告書

（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

《収　入》　単位：円

科　目	実　績	備　考
前期繰越金	657,552	
年　会　費	780,500	5,000×148名 3,000×1名 2,500×3名 過年度会費30,000　合計780,500円
総会収入	457,000	参加59名
新年会収入	545,000	参加72名
組織強化費	175,000	早大校友会
雑　収　入	1,447	利息
合　　計	2,616,499	

《支　出》

総　会　費	437,642	会場費他
新年会費	367,960	会場費他
早大寄付	200,000	早大創立125周年記念事業募金
会　報　費	482,475	会報制作費、印刷費
部会運営費	80,000	囲碁・麻雀・カラオケ・ゴルフ・ウォーキング よん月、会報編集、事務局
会　議　費	16,550	役員会、会報編集会議、会議室借料
交　際　費	134,925	東京23区支部幹事会等
通　信　費	132,160	会報発送費他
事務用品費	68,083	角封筒印刷代他
ホームページ経費	34,953	ニフティー使用料
雑　　費	18,383	会費振込み手数料
繰　越　金	643,368	
合　　計	2,616,499	

注：次期繰越金内訳・三菱東京UFJ銀行　学芸大学駅前支店　641,532円
・三菱東京UFJ銀行　中目黒支店　1,053円
・ゆうちょ銀行　目黒店　783円
合計　643,368円

監　査　報　告　書

私たち会計監事は、平成19年4月1日から平成20年3月31日までの第9期会計年度の会計報告を監査致しました結果、適正かつ正確であることを認めます。

平成20年4月16日

目黒稲門会　会計監事　島田久家　㊞
会計監事　林田雅敏　㊞

目黒稲門会　第10期予算（案）

（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

《収　入》　単位：円

科　目	金　額	備　考
前期繰越金	643,368	
年　会　費	750,000	@5,000×150名
総会収入	480,000	@8,000×60名
新年会収入	480,000	@8,000×60名
組織強化費	142,000	早稲田大学校友会援助費
雑　収　入	0	
合　　計	2,495,368	

《支　出》

総　会　費	480,000	
新年会費	480,000	
会報発行費	450,000	会報印刷代400,000＋予備費50,000
部会運営費	110,000	囲碁・ウォーキング・カラオケ・グルメゴルフ・美術歴史・麻雀・旅行・よん月会報編集・事務局 @10,000×11部署
会　議　費	140,000	役員会等の会議室借料、商議員会費
交　際　費	150,000	23区支部幹事会等
通　信　費	150,000	会報発送費等
事務用品費	100,000	業務用封筒、事務消耗品
ホームページ費	35,000	ニフティ使用料
雑　　費	20,000	振込費用等
次期繰越金	380,368	
合　　計	2,495,368	

校友会だより

2008年稲門祭及びホームカミングデー

来たれ、心のふるさとへ！！

日時：　2008年10月26日（日）　13時より

場所：　大隈講堂・大隈庭園・キャンパス

** 校友の集い大隈庭園で開催 **

早稲田大学校友会　東京都23区支部

日時：　2008年10月26日（日）　12時～15時

目黒稲門会は早稲田大学ちんどん研究会」を提供し、庭園催事をキャンパス内でＰＲして支援します。

どうぞご期待下さい。

23区支部担当幹事　大竹一子

各部会からの案内・報告

囲碁部会

平成20年6月7日に第8回オール早稲田囲碁祭が日本棋院市ヶ谷本院で開催された。　60チーム、300名の参加で2階大ホールは熱気に溢れ、挨拶もそこそこに試合開始となった。

目黒は2チーム、10名を送り、必勝をきした。第1回戦が終了後荒瀬修一郎（28年法）相談役が宿敵横浜Aを破ったと報告に見えた時はさすが最強メンバーで臨んだ甲斐があったと思ったが第7位で終了。目黒Bは第4位に入賞健闘した。

目黒Bは永田耕治氏（36年商）と鵜野洋治氏（39年商）が初参戦。永田さんは第1戦で初白星を挙げ、「チームに貢献できた」とホッとした表情。「久しぶりに本当に緊張した」が楽しかったと。鵜野さんは持ち時間に追われ時計の針が落ちそうになってまわりの観戦者から時間がないぞと脅されながら、ハンカチで手のひらを拭いながらの大奮闘がういういしい姿だった。

近くでの残念会では敗因は前日定例囲碁部会を開催し、スタミナ切れの要因を作った幹事の責任ということになり、自らの実力を疑わない早稲田魂が憎らしい1日でした。それでも会員の気持ちが年々一つになって本音でものが言える楽しさはかえがたいものになってきたと思う今日この頃である。

囲碁部会長　保井　正

よん月会

「よんげつ会」のお知らせ

—毎月　第4月曜日に開催

—時間　午後6時～午後8時

—場所　『あっぱれ都立大学店』（03-3717-4591）

—会費　4000円（飲み放題、食べ放題）

—出欠連絡、　03-3794-0396

(注)　年内開催日

9月22日、10月27日、11月24日、12月22日

よん月会世話人　土川俊雄

ウォーキング部会

目黒区の花は秋に咲く「萩」です。当部会では、4月には国の花「桜」、5月には横浜市の花「薔薇」を山手地区の外国館庭園を中心に観賞、6月には逗子の芝崎海岸から一色海岸を経て葉山の御用邸周辺の紫陽花、菖蒲、黒松を求めて散策しました。

8月には油壺・諸磯から三崎、荒磯海岸散策が行われます。

今後の活動予定

第23回　9月16日（火）鶴岡八幡宮の流鏑馬と萩、彼岸花を求めて

鎌倉駅東口（午後1時集合）—浄光明寺—鶴岡八幡宮(流鏑馬)—瑞泉寺—宝戒寺—鎌倉駅

第24回　10月17日（金）富士山をバックに吾妻山公園のコスモスの海

二宮駅（午後1時集合）—吾妻山公園—浅間神社—大応寺—知足寺—瀧澤寺—蘇峰記念館—浜の観音さん—二宮駅

ウォーキング部会長　桑野祐光

カラオケ部会

新聞雑誌等で健康に関する記事が目を惹く、何故？曽て先輩達が寄ると、病気・薬の話で、うんざりさせられたものでした。現況、自分も先輩達と同じ事に気付いたせいかもしれない。　健康に就いて。

医者が勧める「健康カラオケ」　秘テクニックに脳の活性化を図ること。

オペラ歌手は声力トレーニング（声が良く出る、いい声になる）が自己開発の健康法の一つであると。

何れも、よく聞く、理解する、複式呼吸で発声、歌い込む。そして、選曲、持ち歌、物真似、歌う回数、体の表現力がカラオケ上手になり「演歌療法で若返る」と言うことであると。

学生時代、国語漢文で良く言われたことを思い出す、内容を理解し、声を出して何回でも繰り返し読み込むこと、他の学科でも同じこと。

我が目黒稲門会に於いても、老人会でも、カラオケがあり、団塊世代では、シャンソンがある様に、必然的に、歌と健康が一体に。

カラオケで健康に　　健康でカラオケに

カラオケ部会長　　海口昭治

美術・歴史鑑賞部会

美術・歴史鑑賞部会は「知るを楽しむ」をモットーとして、機会を捜して皆でご一緒に鑑賞し、語らい、知識と印象を倍加する楽しみを続けております。

近々は国立西洋美術館に「コロー　光と追憶の変奏曲」展を訪ね、銀灰色の詩情溢れる風景画、母への慕情を基とした女性像に深い感銘を受けて来ました。

新年度は、新しい企画で年3～4回の機会を作りたいと考えております。ご希望、アイデアなどを是非事務局まで随時御寄せ下さい。

美術・歴史鑑賞部会長

ゴルフ部会

第23回目黒稲門会ゴルフ部会を以下により開催致します。

1）月日：10月14日（火）

2）場所：御殿場ゴルフ倶楽部

予定表に記入の上、参加をお待ちしています。
新入会員の方々は是非ご連絡下さい。
(03-3712-2444)

ゴルフ部会長　大野利幸

グルメ部会

グルメ部会では、5月31日（土）に明治記念館内「羽衣」での、お寿司、天麩羅、鉄板焼などの和食三昧で今年度の活動をスタートいたしました。

8月1日（金）には、恵比寿ガーデンプレイス内のレストラン「銀座ライオン」で、ビアパーティーを開催しました。　現在、参加者申し込み受付中です！

また、9月26日（金）と10月7日（火）には、毎年恒例の新そば会を麻布十番の「更科堀井」で行います。　本会報にそのご案内文を同封致します。

旬の美味しいおそばを堪能なさりたい方は、是非ご参加ください。

グルメ部会長　　海沼美智子

麻雀部会

(1)　三区親善麻雀大会

4月26日（土）、渋谷の麻雀クラブ「スリーハンドレッド」に於いて、第20回三区（目黒・渋谷・世田谷）連合親善麻雀大会が渋谷稲門会主催により開催されました。親睦を深めた競技の結果、優勝は目黒の横山副会長、準優勝は世田谷の能氏、三位は目黒の上村氏と目黒勢が健闘しました。

(2)　定例麻雀大会

6月1日（日）、武蔵小山の麻雀クラブ「サン」に於いて　第34回定例麻雀大会が開催されました。和気藹々の半チャン4ゲームを制し　優勝したのは本田氏、準優勝は鵜野氏、三位は土方氏と実力者が入賞されました。

(3)　今後の大会予定

次回の定例麻雀大会は9月28日（日）を　また三区（目黒・渋谷・世田谷）連合親善麻雀大会は目黒稲門会の幹事により11月8日（土）を夫々開催予定をしております。　皆様奮ってご参加下さい。

麻雀部会長　松尾洋一

この一句（会員俳句）

短夜やむかしのをよみ返す　　桑野祐光（S.33 商研）
夜の更けゆくままに、昔の書簡や写真を見ていると、その時代や交友がそのまま不思議に甦るものである。その文の中身は返し文では？との問いには、想像にお任せしよう。

青葉闇いのち育む十二　　保井　正（S.34 政経）
春は桜の満開、夏は闇入る青葉、秋は照葉、冬は木漏れ日の目黒川沿い。毎日約6千歩、小一時間ほどの散歩道になっている。生命を漲らしてくれる川沿いの風景である。

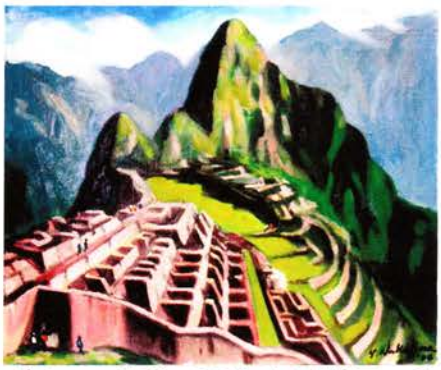
若き日の言葉を探す黄葉期　　梶　恵作（S.37 政経）
一昨年、早稲田ホームカミングにゼミ仲間と共に参加した。会場では45年ぶりの友の顔もあった。
過ぎた時の速さと歳月の長さを感じ乍らの一句。

句帳とも雑記帳とも旅始　　佐藤喜仙（S.40　政経）
吟行での即吟が苦手なものですから、私の句帳は散文での書き込みや見たもの、聞いたことのメモが多くまさに雑記帳なのです。いつも帰宅後に句帳（雑記帳）を見ながらじっくりと作句しております。

俳句の会　世話人　梶　恵作

会員ギャラリー（絵画、写真）

『大歩危』水彩、Ｆ４（藤岡長世　Ｓ.22年　法）
昨春、四国巡りの旅で立ち寄った「大歩危」のスケッチです。



『マチュピチュ』油彩、Ｆ10（中島侑三　Ｓ.31年政経）　企業戦士40年、残る20年を旅行と油絵に熱中、最後の秘境ペルー空中都市を尋ねました。

『日本橋の朝』水彩、Ｆ４（岩佐好恭　S.34年　法）
全日本アートサロン大賞展入選作、日本橋はオリンピックで高速道路に埋没、その風情も消滅してしまった。

『不揃いのブドウ達』油彩、Ｆ４（小野　満　Ｓ.41年商）　この油彩画は次女の家の玄関に飾られていますが、訪問する度に懐かしさに捕われます。

『早春の隅田川』撮影（島田久家　Ｓ.27年　商）
昭和30年2月吾妻橋の上で初購入の蛇腹カメラ（パールⅡ型）試写の一枚、空気も川も汚染も無き良き時代でした。

『挑戦』　撮影（田畑　繁　Ｓ.30年　法）
千葉・佐原の大祭、山車祭（00.10.07）女性専用の重量みこしに挑む乙女たち＿。

『出島石組と地中立石』撮影（大野利幸　Ｓ.35年理工）日黒稲門会旅行の毛越寺での写真です。池中立石と大泉ヶ池と向い側の風景を入れて広大な庭園を描写した作品です。

『ヘビー・ピクニック』撮影（庄野　耕　Ｓ.35年商）好きなハワイでマウイ島の東側、オールドハワイの面影が残るハナ海辺で寛ぐご一行に気を取られた。

会員の広場

『日本の野鳥と英国の野鳥』—自然観察—

紀本直幸（昭和36年　法）

都市化が進んで、住宅地の緑が減少するにつれて我々が住む地域で見られる野鳥の種類や数も年々数が少なくなって来たように思われる。それでも今年の春は目黒川の桜が満開の頃から一ヶ月早朝鶯が家のすぐ近くで鳴くのを聞いた。梅雨に入って暑くなるこの時期、毎日目にするのは早朝からうるさいカラスとすずめ、それに山鳩である。秋から冬にかけてやってくる鳥たちは春から夏は子育てと避暑のため涼しい山間部へ移動するのであろう。

秋も深まって賑やかにやって来るのはヒヨドリである。メジロ、シジュウガラなども見かける。去年の暮から今年の初めにかけて、ヒヨドリが大声で鳴きながら数羽やって来て、我が家の南天の赤い実を数日のうちに全部食べてしまった。また、暮れに赤い実のたくさんついた千両と万両の鉢植を玄関の脇へ置いておいたら、これも目ざとく見つけて食べてしまった。もう一つ、百両というのを庭に植えた。これは赤い実と白い実の対になっているのを、川崎大師の植木屋に縁起ものだとすすめられて買って来たものだ。これも赤い実はヒヨドリが食べた。白い実は食べない。どうも赤い実を好むようだ。かような次第で、ヒヨドリはあまり好きではないが、これも自然の営みであり、また来ないと寂しい気もするものだ。

日本の住宅地で見られる野鳥には季節性があるように思う。メジロは寒い時期に見られる鳥で、暮れから年初にサザンカの蜜を吸いに来る。熟した柿の実を塀の上に置いておいたら、二三羽で代わる代わる食べていた。これも又ヒヨドリが来てメジロを追い払って、残った柿を全部食べていった。

小学生の頃、疎開先の広島県の田舎に住んでいた時、メジロを飼う大人たちが集まって、鳴き声を競わせるコンテストをやっていた。寺の本堂のような広い部屋に長い机を置いて、一方にメスの籠を置き、片方に各自が持って来たオスのメジロの籠を置いて時間をきめて鳴き声を聞きながら評定して順位をつける。よく鳴いたメジロには「東の大関」というような名がつく。オスのメジロは鳥の愛好者がメスの籠を持って山に行き、木の枝につるしてその周辺の枝に鳥モッチをつけて、止まったオスを生け捕りにして家で飼っているのである。メジロは目の周りに白い縁取りがあって、体の緑色が美しい色合である。飼ってみたくなる気持ちもわかる。

1980年の暮から1986年の初まで5年間英国で暮らした。ロンドンの南サレー州のサービトンに庭付きの家を借りて住んだ。ロンドンのウォータールー駅から急行に乗って、テニスで知られるウィンブルドンの次の駅で下りる。ピッチング・ウェッジが練習出来る程の奥行きのある裏庭のついた家で、まん中は芝生、両端は塀に沿って花壇になっていた。英国の野鳥は種類も数も日本に比べ多いように思われ、一年中同じ鳥が身近に見られる。英国の住宅地や公園でみられる代表的な鳥は何といってもブラックバードであろう。何時も集団で芝生に居て、黄色いくちばしを芝生に突っ込んで虫を食べている。おそらくみみずを食べているのだろう。体も名のとおり黒色で、ヒヨドリぐらいの大きさである。クロウタドリという日本名もある。この鳥の最大の特徴は、その姿に似ず声が美しいことである。高いソプラノでながく伸ばして歌う。庭のすももの木の上で秋の夕方良く透る声で鳴いていた姿が目に浮かぶ。

もう一つ人々に親しまれている鳥はロビンである。ある夏の日の午後、花壇を鍬で耕していたら、塀の上に止まってこちらを見ている。私が何か物を取りに離れた時に、すばやく飛んできて、耕した土の中から小さい虫をつまんで食べた。土を掘れば虫が出てくることを知っていて、それを待っていたのであった。赤い実のついた柊に止まっているロビンのカードの図柄から、植物の実を食べるのかと思っていたが、小虫も餌にしていると知った。なる程と感心しているところへ、隣家のMrs.Crunstonが愛犬を連れて庭に出てきた。そこで先のロビンや草花の話を垣根越しに立話をした。

「愛らしいロビン」

Mrs.Crunstonは典型的な英国夫人で、庭の草花の世話を日課としている。一年で枯れてしまう一年草をannual、毎年芽を出す多年草をperennialと云うと教えてくれた。夫人は英国の庭にはこのannualとperennialが両方あって、この配置や配色を考えながら庭作りをするのが一番の楽しみだと話した。この日はロビンの生態と新しい英単語を二つ知って、何故か満足した気分になって、夕方家に入って飲んだエールがとてもおいしかったのを思い出す。

久々に、旧知を訪ね、昔なつかしいゴルフ場を巡る旅に出ようかと考えはじめている此の頃である。

（平成20年7月15日　記）

『カクテルは愉し』

林田雅敏（昭和31年　商）

1951年早大生になったものの、前年夏父が急死し、稼いで生活しながら学校に行かねばならなくなる。折角見つけたアルバイト先は、わずか2ヶ月で倒産してしまい収入は最初の1ヶ月のみとなる。

国立の実家は駅から1Km位、中学一年の夏、家を建てて移ってきた。父母と兄妹の4人の6人暮らし。

家に食費を払い学費も捻出するというアルバイトはそう無いのであせってしまう。父が亡くなってからギター弾きのバンドマンに間貸しをしていた。この人から「バイオリンを弾くのだから、バンドマンにならないか、ダンス・ミュージックなら教えてあげる」と云われ、軽音楽はやったことがない私だったが、背に腹は変えられずバンドマンになることで腹をくくる。

丁度学校は夏休み、彼は江ノ島の或る新聞社主催のテント村で夜のダンスパーティのバンドをしていたので、1週間くらい泊まりながら楽団の人達にタンゴやラテンのリズムを教わる。そこのバンドの人が、銀座のラテンバンドの3rdバイオリンの仕事を見つけてくれたので、テストを受けて入ることができた。

学校は夏休みなので、昼間はダンスホールのタンゴバンドに出て、夜は銀座のキャバレーバンドと、一生懸命軽音楽に慣れるようにした。

冬になり夜の銀座では桜井潔とその楽団に移った。このバンドにはマラカスの名人がいた。格好良く振るのを見てそのマネをしてみる。後になってこれがカクテルのシェーカーの振り方で、氷をシェーカーの壁にまとめてぶつけて振るのと同じなのだ。

日比谷の交差点のところに以前日活ホテルがあり、ここのメインダイニングで演奏するセミクラシックバンドに移る。帰り道にあるバーで本日のカクテルサービス一品とあり、入ってピンクレディーを飲んでみる。バーテンがレシピはドライジン、グラナデン、レモンジュース、卵白ですよと教えてくれる。一寸甘くてスッパイ。自分でもこんなものを作れないかなと思う。

桜井バンドの親爺さんが1人でドサ廻りしているので残りの人達で作った東京コンチネンタルに入る。やはり銀座のキャバレーで、直ぐ近所のキャバレーにディキシーバンドのホットペッパーが出演していた。

ここのベースが国立の家のそばで仲良くなる。東京駅12時3分発浅川行き（現高尾）最終電車の後方3両目で待ち合わせて一緒に帰る。だんだん仲間が増え、ホットペッパーのクラリネット夏目さん（漱石の孫）がチャーミングな奥様と乗ってくる。浅草オペラで活躍した田谷力三さんもマネージャーの奥様と仲間に入る事があり、気さくに話に乗ってくれた。キャバレーの綺麗どころも入って、楽しい帰りの電車になる。

中にバーテンの柿沼さんがいて、三鷹を過ぎると酔客の外は我々の様な人種となる。柿沼さんにカクテルの作り方を教わる。親切な人で専門書も貸してくれた。たまにはバンドの休憩時間に柿沼さんが働いているバーへお客となって行きカウンターに坐って教わる。

カクテルはマティニ、マンハッタンで始まり、マティニ、マンハッタンに終ると柿沼さんから教わったが、私は作るのも飲むのもこれが一番好きだ。特に、マンハッタンにマラスキーノチェリーをいれて飲むのは格別好きだ。初めの頃はレモンピールをスクイズして皮をそのままカクテルに入れたが、最近はスクイズした皮は捨てている。

卒業して会社に勤め、駒場に住むようになってから、会社の人を呼んでカクテルを作ったりしていた。家内は結婚して来た当座、実家では誰も飲ないのでお酒を知らなかったが、カクテルを飲むようになり、お酒が大好きになった。

正月親戚の人達が集まり、家でカクテルパーティーをすることがあるが、結構皆強く10種類以上も作る。パーティーでは私は先ずビトウィーン・ザ・シーツから始めるが、これが好評になり、それ以後どこのパーティーでもこれで始める。目黒稲門会でも以前ダンス部会があり（今は休会）、夏やクリスマスにパーティーをやったが、スパークリング・ワインなどを飲んだが、カクテルを出したこともある。やはり、ビトウィーン・ザ・シーツから始まり、マルガリータ・シンガポール・アブサン系のカクテルを作って喜ばれた。

よくカクテルはジン台とか、ブランディー台とか、スピリッツを1本に絞った方が悪酔いしないと云うが、私のレシピはフルーツジュースを入れたブランディー、ラム、テキーラ、ジン等々複数のスピリッツを飲むのが好きで、皆さんにもこういうのを薦めている。

『栃木を訪ねる旅』紀行

岩瀬　暁（昭和35年　商研）

6月8日目黒駅前を『栃木を訪ねる旅』に8時出発、蔵の町に十時到着、山本有三記念館を見学し、町を散策、町は千葉県の佐原市によく似ており、川を中心に左右の町並みがそっくりでした。塚田歴史伝説館では三味線ばあさんロボットにびっくり、また観客側に座っていた人形が我々の仲間と間違えるほどよく出来ていました。

そこで昼食をすませ、日光田母沢御用邸記念館へ、大正天皇のご静養のために造営され、昭和22年まで三代にわたる天皇・皇太子が利用されたそうです。中に入って驚いたのは、畳の縁に乗らないで下さいと言われたことです。私の育った頃は戦前・戦中ですが、親からよく聞かされておりました。今は畳の部屋が少なくなり生活様式も変わってきました。しかし、理由は絹を使っているからでした。大規模な邸宅も庭園もきれいに整備されており、維持費も大変だろうなあと思いました。

宿泊ホテルは『あさまや』で鬼怒川温泉でも一流な立派なホテルです。夕食では懐かしいビンゴゲームで大いに盛り上がりました。二次会はカラオケ大会で皆様の美声を堪能し、私も『人生劇場』を歌いました。後で聞いたのですが、昨年は静岡だったので皆さんで人生劇場大会があったそうですが、今年は私一人だったのでほっとしました。締めは『紺碧の空』を全員で合唱してお開きとなりました。

6月9日の朝8時出発。　天気が心配で、雨ならば龍王峡は中止でしたが皆様の心がけが良かったので予定通り。下って登るのでかなり体力は消耗しましたが、皆元気で輪王寺へと向かいました。輪王寺は三代将軍家光の墓所、参拝を終え日光東照宮へ。まず神厩舎で『見ざる、言わざる、聞かざる』の三猿の彫刻があり、ガイドによると母猿に見守られながら一人前になると言う人の生き方を説いたものだそうだ。特に子供の時は、悪いものを見たり、言ったり、聞いたりしないようにという願いが込められているとのこと。ところが私が子供の頃に聞いた話は、見てみぬふり、聞いても聞かぬふり、言いたくても言ってはいけないとうい教えであると聞いた。戦時中もそうであったが、封建制度の江戸時代も同様なのかと思っていました。そこでふと大正天皇のことを思い出しました。とかく問題があった天皇だが戦時中はうっかり話をすると憲兵が飛んでくるというので子供心に恐れていました。話は逸れてしまいましたが、陽明門、鳴き竜を見学し、二荒山神社へと参りました。日光山内では最古の建物だそうです。参拝も終わり、昼食は日光ゆば料理を恵比寿家にて。これで後はバスで帰るだけと昼間から酒がついついすすんだ様です。足りない分はバスの中でと一時出発。後部座席をサロン風にセットし、樋口大先輩が会長もお誘いして、大宴会となりました。眠い方にはご迷惑をお掛けしました。

最後は会長の挨拶、その中で私のカラオケをお褒め頂き感謝しております。また、皆様も初参加の私に気を使って頂き有難うございました。幹事様並びに関係者の皆様本当にご苦労様でした。楽しい旅行会に今後ともぜひ参加したいと思いますので、宜しくお願い申し上げます。

ホームページ（HP）便り

昨今携帯でHPをご覧になる方も増えてきました。他の稲門会に先駆け、携帯電話版のHPを開設しました。URLは下記の通りです。

http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/keitai/

（小杉　記）

編集後記

7月の定時総会より、八幡新会長の登場になりました。　加藤前会長には編集面で色々ご支援を賜ったことを感謝すると共に、新鮮な気持ちで新会長の誕生を迎えております。

年一度のカラー版を、会員の方々の作品である絵画と写真にコメントを添えて頂きました。　更に、俳句の作品も「この一句」と題して、梶幹事に世話役を御願いして日頃の腕前をご披露頂きました。

次号からは外岡相談役の新しい切り口での母校の歴史を振り返る力作シリーズが始まり、更に会報の奥行きが深まることが期待されています。　（服部　記）